

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	19109004	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	メタロプロテアーゼによる組織内微小環境因子代謝の作用機構解明と制御	研究代表者 (所属・職)	岡田 保典（慶應義塾大学・医学部・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準
	A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、メタロプロテアーゼ、特に MMP-7, -13 と ADAMTS4 並びに ADAM28 を中心にしたこれら分子の慢性炎症疾患と悪性腫瘍における病理学的解析を進め、その成果を臨床に応用することを目的にしており、幾つかの重要な進展があり研究は概ね順調である。

とりわけ MMP 分子群の効率的な精製法や ADAM28 結合分子のスクリーニング法を開発し、MMP と関連分子の腫瘍性ならびに非腫瘍性疾患における病態学的意義に関する成果を挙げ、それらの治療応用への可能性が期待される。

しかし、本研究の遂行上で若干の変更を余儀なくされている点が気になる。特に主目標の一つである ADAM28 に関する研究では、遺伝子 KO マウス作製の遅れやモノクローナル抗体の治療応用におけるより多くの基礎的研究等、更なる研究方法や環境の改善が望まれる。

【平成24年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究は、MMP と ADAM を対象に、(1) それらの基質や調節因子を同定してその意義を明らかにする、(2) 基質や調節因子を含めてがんにおける病態形成への役割を解明する、(3) 炎症における病態形成との関連を明らかにする、(4) 診断と治療への利用のための一步を踏み出す、という4つの目的を持つものである。詳細については当初の計画とは異なる部分もあるが、4つの目的に基づく研究は適切に遂行されており、MMP-13 や ADAM28 のがん病態形成における役割など独自性の高い研究成果を挙げ、科学的な貢献度は大きいと判断出来る。研究成果の発表状況も極めて良好である。ただし成果は分散的であり、領域の新たな発展を牽引出来る創造的な概念の提案には至っていない。</p>
A	